

会議の概要

令和3年度 第7回

おおたま学園コミュニティ・スクール委員会

兼 ○ 大山幼稚園学校運営協議会 ○ 玉井幼稚園学校運営協議会
○ 大山小学校学校運営協議会 ○ 玉井小学校学校運営協議会
○ 大玉中学校学校運営協議会

日 時：令和3年12月13日（月）18:30～20:45

場 所：改善センター1階 多目的ホール 他

（進行 指導主事 斎藤 一範）

1 開会のことば （おおたま学園コミュニティ・スクール委員会副会長 吉田 都）

みなさん、こんばんは。これより令和3年度第7回おおたま学園コミュニティ・スクール委員会（以下CS委員会）を始めます。よろしくお願いいたします。

2 教育長あいさつ （大玉村教育委員会教育長 佐藤 吉郎）

○ 皆さん、こんばんは。大変お寒い中、お疲れのところありがとうございます。2学期残りわずかになってしまいました。教育活動が非常に懸念されたのですが、お陰様でそれぞれの幼稚園、学校でいろいろ工夫していただき、いい活動をしていただいたことに改めて御礼申し上げたいと思います。また、CS委員の皆さま方には様々な形でお知恵をいただいたり、ご支援をいただいたりと本当にありがとうございます。家庭・地域と連携した教育活動が展開されたのかなと思っています。

○ 皆さんに紹介したいことが2つある。1つ目は、2021年第27回日本管楽合奏コンテスト全国大会中学校S部門（15人以下）において、大玉中が最優秀賞を受賞したことである。村長にも報告に行ったが、昨年度に引き続き2年連続であった。指導者の矢吹先生も指揮者賞をいただいた。本当に素晴らしいことである。

○ 2つ目は、「ふくしまを十七字で奏でよう 絆ふれあい支援事業」ふるさと部門で、玉井小6年渡辺希心さんとお母さんが最優秀賞を受賞したことである。この事業は、毎年福島県が行っている大きなコンクールで、今年がちょうど20年目の節目の年であった。子どもと親あるいは祖父母というように、2人がペアになって17字の句を創るものである。年々参加者が増えてきて、今年は8万人の人が参加した。とてもいい句なので目をつぶって聞いてほしい。



子： 秋祭り みんなで輪になり オラドッコイ
母： 安達太良の 秋空に舞う 囃子の音

3年前にも最優秀の作品がでていた。玉井小3年の五十嵐桜俐くんが幼稚園の年長組の時に、お母さんと創ったものである。

子： ママきいて なんばんめにね ぼくがすき
母： 耳もとで 一番好きよ ひみつだよ

とてもいい句で、こんなふうにして家庭、地域の中で子どもたちは育っていくのかなと感じている。

- 今日は、第1部が研修（講話）になる。講師は福島大学特任教授の佐藤和彦先生で、私も昔からよく存じ上げている本当にすばらしい先生である。何がすばしいかと言うと、ものすごく情熱がある先生であることである。また、国語の先生であり、福島二中の校長先生だったころ、『最後の仕事』と題して、「別れの教育」について印象深い原稿を掲載されていた。（“子どもたちや先生方へのメッセージ”、“自分自身へのメッセージ”を記している。〈資料参照〉）

本日、和彦先生には「学校評価」ということでお話しいただく。評価は難しいものと思われているが、和彦先生の言葉でご講話いただきたいと思う。

- その後の協議題が2つあるが、CS委員の皆さんにはよろしくお願いします。次回は1月13日（木）で年が改まった時の会になります。1年間大変お世話になりました。どうぞよいお年をお迎えください。

3 おおたま学園CS委員会会長あいさつ

（CS委員会会長 伊藤 和弥）

皆さん、こんばんは。本日はお忙しい中第7回CS委員会にお集まりいただきありがとうございます。全部で9回あるわけですが、そのうち今日は7回目で、今日を含め残すところ3回となりました。熟議を主体に毎回話し合いをしながら楽しくできているのかなと思っています。残り3回ですが、やっつけて楽しくできるよう工夫しながら進めていきたいと思っておりますので、みなさんのご協力をお願いします。

佐藤先生、今日はお忙しい中ありがとうございます。講話を楽しく聴かせていただきたいと思いますのでよろしくお願いします。

今日は予定がかなり詰まっています。あっという間にはなると思いますが、皆さんのご協力を得ながら進めていきたいと思っておりますのでよろしくお願いします。



4 諸連絡

（指導主事 斎藤 一範）

- 本日の日程と内容について説明
 - ① 研修：「学校にかかわる 学校がわかる 学校がかわる」
～ “対話” と “気づき” を通した学校関係者評価～（講話）
 - ② 協議：第3回おおたまコミュニティ広場について（全体）
 - ③ 協議：令和4年度各園・各校の幼稚園・学校運営方針についての熟議（各校・園毎→全体）

5 研 修

（座長 CS委員会副会長 矢吹 吉信）

（座 長） それでは講話に移ります。佐藤先生、よろしくお願いします。

（1）講話「学校にかかわる 学校がわかる 学校がかわる」

～ “対話” と “気づき” を通した学校関係者評価 ～

講師 福島大学 特任教授 佐藤 和彦 様

【プロローグ】

今日お話しすることは基本的なことで、すでに資料として昨年度の『経営評価報告書』が配付されており、その内容や事務局のこれまでの説明と重なりとところもあります。確認という意味も込め、私なりの表現を通して学んでいただきたいと思います。

【① はじめに】

ア「評価」とは・・・よさを見とること、価値に気づくこと ⇒ 言葉を平らかにすることは、よさを見つけ価値に気づいてもらうことである

イ 学校関係者評価に取り組んだ学校のアンケートから

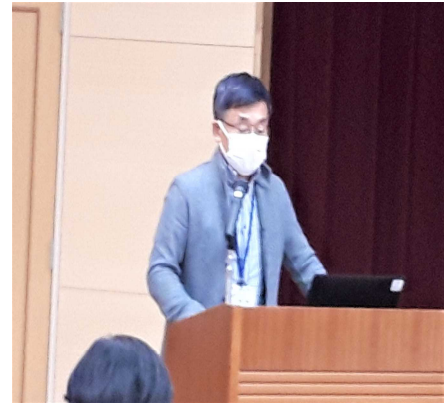
- 教職員に新しい気づきがあった
- 学校運営に生かされた
- 様々な示唆をいただいた
- 学校ががんばっていることを保護者や地域の人たちに理解してもらえた
- 自己評価に客観性をもたせられた
- 開かれた学校づくりの一助になった
- 学校の説明責任が果たせた

ウ 言葉・用語の説明（略）

エ 学校評価が目指す学校の姿

- 子どもが行きたい学校 ○ 親が行かせたい学校 ○ 先生が働きたい学校

オ 学校関係者のためのQ&A（略）



【② 学校関係者評価とは】

ア 学校関係者評価のとらえ方

- 学校とそれに関係する人々が理解を深め合うためのコミュニケーションツール
＝ 学校のあるべき姿、ありたい姿と現状とのギャップを埋めるコミュニケーションツール
- 保護者や地域住民が、よりよい学校づくりのプロセスに参加するための仕組み
＝ 学校をあるべき姿に動かすエンジン（推進力）の一つ

イ 学校関係者評価の目的

- 学校自己評価の客観性・透明性を高める
- 学校・家庭・地域が学校の現状と課題について共通理解を深め、相互の連携と協力により学校運営や教育活動の改善を図る

ウ 評価の対象

- 学校が実施した自己評価の結果
- 学校が自己評価の結果に基づいて策定した改善策や今後の方針

エ 学校関係者評価を行うに当たっての考え方

- 学校改善につながる前向き（主体的・能動的）な活動
⇒ 学校に関係する方々がそれぞれの意見を交換し、自己評価結果に現れた今後の学校教育活動の方向性を多くの目から見て納得できるようにすることが重要
 - ・ 授業や学校行事の参観 ・ 施設・設備の観察
 - ・ 教職員・児童生徒との十分な対話・意見交換
- 教職員と委員との「対話・意見交換」の場とは相互の関係づくりの場である
- 学校が特に力を入れて取り組んでいる教育活動や重点課題に視点を絞ると、評価しやすくなる。学校側も学校関係者評価に対するモチベーションが高まる。

オ 学校関係者評価のポイント

- 自己評価の結果の内容が適切かどうか
- 自己評価の結果を踏まえた今後の改善方針が適切かどうか
 - 学校の重点目標や自己評価の評価項目等が適切かどうか
 - 学校運営の改善に向けた取り組みが適切かどうか

評語・分析結果・
改善策の具体的視
点で見取る

評価委員の評価結果が一つにまとまらない場合は・・・

- ・ 見解の異なる複数の意見を学校評価シートに記載する
- ・ 評語平均値を出し、評語を決定する

【③ まとめ】～学校関係者評価のキーワード～

- 説明責任… 学校の適切な情報提供と説明責任
- 情報量（評価機会）… 評価をするための機会や情報量
- 客観性と納得性 … 学校自己評価に対して「納得性」という基準、視点でとらえることが必要



- ず れ … 学校自己評価と学校関係者評価のずれを学校改善に生かす！
- 参 画 … 全職員と学校関係者評価委員の一体となった協議が必要！
- 機能性 … 評価結果を迅速に学校改善の取組みに反映させる！



【④ おわりに】

- ◇ 学校の“厳しくも温かい応援団”になるという気持ちで参加する。
- ◇ 様々な機会を捉えて、学校の様子の見学や子ども・教職員との意見交換を行う。



- 開いて待つ学校から開いて出る学校へ。
- 学校に何をしてもらうかではなく、家庭、地域で何ができるかへ。

< そんな歩みを止めない 学校・家庭・地域のみが学び続ける子どもを育成できる >

「すべては子どものために」です。この後もいろいろと話し合いがあるということですが、委員の皆さまの益々のご活躍、学校評価の充実をご期待しお話を終わらせていただきます。

ご静聴ありがとうございました。

（２）質疑

（座 長）佐藤先生、分かりやすいご講話本当にありがとうございました。まとめの最後のところで、キーワードとして「学校の厳しくも暖かい応援団」「すべては子どものために」という言葉があり、心が熱くなりました。日頃から学校の応援団となりできることは何でもやると言っているのですが、なかなかできていないこともあり、学校評価を通して学校の応援団になれるようしっかりと取組みたいと感じました。

それでは、時間が１０分程とつてあるので、質疑応答ということで皆さんの中で佐藤先生に質問等があればお願いしたい。

（伊藤会長）佐藤先生、どうもありがとうございました。

私も学校関係者評価を結構長い間やらせてもらっているが、本当に先生方には一生懸命教育に当たっていただいていると感じている。時々“ずれ”を感じるのは、学校の自己評価が低いのではないかということである。（Ｂ評価となっているがＡでいいのではないかな等々。）

また、改善の視点がだいたい場合は「継続・発展」の項目に入ってしまうわけだが、みんな重要な内容であるので「継続・発展」は当然なのだが、今定着しているのであれば違う項目に重点を移した方がいいのではないかなと思うときもあるが、そのことについてはどうなのだろうか。

（佐藤教授）その通りだと思う。（学校関係者評価を）継続してやっていると、いろいろ見えてくる部分もある。大事なのはそういったことを率直に意見として残しておくことである。

→ その意見により、学校は同じことの発展・継続であっても「同じことをやっていればいい」と捉えてしまうとさらなる継続・発展はないと考える。よって、さらに進化していくためには、常にベターな評価をすることが大切。例えば、同じＢ評価であっても範囲は広くて上から下まで幅があるので、その辺も示せるようにするとよい。

→ Ａ評価だからといって別なものに重点を移すことが難しい場合がある。実施する学校・

園からすれば、A評価を維持・発展していくのには大きなエネルギーが必要である。また、毎年子どもも教職員も変わるので、先々についても考える必要がある。学校・園それぞれで抱えているものが違う場合も…。

大玉の学校関係者評価は、おおたま学園CSの中で共有する場があり、それが強みであると思う。「自分の子どもさえ良ければ…」という発想ではなく、となりの学校や幼稚園についても9～12年間の学び育ちの中で一緒に見ていくことができる。他との比較ではなく、「大玉の子どもをみんなで育てていく」という視点は大きな強みである。

CSと併せて学校関係者評価の進め方が統一されているのもよい。また、それぞれの学校・園の特色があつていいと思うので、そういった部分を全面的に出していく中で、それぞれのよさも伸びていくのではないかと感じている。

(伊藤会長) 本当に参考になりました。ありがとうございます。

(座長) 他にはないか。佐藤先生はお帰りになってしまうが、これからの熟議の中で話が出ればそのことについても話し合っていたきたい。

～ 佐藤教授退席 ～

6 協 議

(座長 CS委員会副会長 矢吹 吉信)

(1) 第3回コミュニティ広場について

① 事務局案の提示（開催計画案による説明）

10月の第5回CS委員会で委員の皆さまから意見をいただいたことをもとに修正した。

ア 第3回コミュニティ広場（第13回教育フォーラム）開催計画（案）の説明

- 日 時：令和4年2月19日（土）9：00～11：30 於 改善センター
- 参加者を限定し、広報等はしない。（最大130名）
 - ・近隣市町村の来賓、CSで育った学生等を加える。
- 第1部「大玉村をさらに元気にするために 地域への恩返し」小・中学生の発表
 - ・村内在住者に発表の様子をライブ配信する。（『広報おおたま1月号』に配信QRコードを掲載）
 - ・小・中学生の発表は2月19日の発表終了後から2月27日まで再度配信する。
- 第2部「ふるさと大玉村をさらに元気にするために私たちの思いを語り合おう～学校・家庭・地域のつながりを通して～」フリートーク
 - ・子どもたちの発表をもとに、その実現に向けて、地域や企業、保護者が子どもたちや学校と一緒にやってみたいことや、子どもたちや学校が地域や企業、保護者と一緒にやってみたいこと等について意見交流を図る。
 - ・ワールドカフェ形式による共有（①②③各5分×3＝15分）
 - ① グループの半数（3～4名）が残り、他のメンバーは他のグループに行き、話し合われた内容を共有する。
 - ② はじめに発表したメンバーと他のグループに行ったメンバーの役割を交換する。
 - ③ 最初のグループに戻り、他のグループで話し合われた内容を共有する。
- 役割分担 次回第8回CS委員会（1月13日）に提示する。
- その他 村内居住者に限定して動画配信する（2月19日～2月27日）。動画視聴用QRコードは『広報おおたま1月号』に掲載する。

② 質疑応答

(座長) 只今事務局より説明があつたが、質問等は何かあるか。・・・(ない様子)・・・

斎藤指導主事が気にしていたのが、ワールドカフェ形式のところである。コロナ対策や開催可否の決定等についても明記されている。ゆっくり見ていただき、最後の全体共有の中で質問、意見等があれば出してほしい。それでは、これよりご移動いただき、各校・園来年度の運営方針について説明を受け熟議をしていただきたい。

(2) 令和4年度各園・各校の幼稚園・学校運営方針について

① 各園・各校の素案についての説明及び熟議（各園・各校ごと）

- 各園・各校ごと（グループ）の進行による … 大山幼、大玉中、玉井幼小、大山小



② 全体共有 ※重点事項及び変更点を中心に

（座 長） それでは、全体共有ということで、来年度の重点項目及び変更を中心に各校・園の代表の方から説明をお願いします。

ア 大玉中学校

（大玉中学校長 安田 浩明）

- 来年度の学校運営は、「（不易と流行）ではないが」「知・徳・体バランスのとれた人間の育成」を大きなベースとしながら、特に今までの取組みをSDGsの視点から活動を見直していくことが一つの課題と考えている。
- もう一つは、「地域と共に歩む学校づくり」という視点に立って、教育計画に地域の素材・人材を意図的に位置付けて、豊かな学びを創っていくことである。今年度もそういった試みをしてきたわけだが、来年度はそれを着実にやっていきたいと思っている。
- 先程の「知・徳・体バランスのとれた人間の育成」の「知」の部分では、（令和の日本型学校教育の一つである）ICT環境を最大限に活用することによって、子どもたち個別の最適な学びや、協働的な学び等を創っていききたい。そのための授業改善を進めるために、来年度も同僚性を生かした研修を充実させていききたいと思っている。
- 「徳」の部分だが、地域の方々、大人との心の交流を大事にして豊かな人間性や社会性を育んでいきたい。

イ 大山小学校

（大山小学校長 舘脇 一弘）

- 次年度変更したい点について何点かお話しをさせていただいた。その中のご指摘いただいたのが、ICTの効果的な活用の中で情報モラルの教育を充実させようと考え、加えたのだが、それは道徳科における「心の教育」ではないかというご意見があった。道徳や人権教育と絡めて表記するようにしたい。
- SDGsを加えていきたいという話をしたところ、「体験活動を通してSDGsの学び」に取組んでほしいという要望があった。体験活動の中に加えてはどうか等のアドバイスをいた

だいた。検討したい。

- SDGs への学びによって、子どもたちの負担が大きくなりすぎないようにすることが大切で、今普段の生活でやっていることやSDGsにつながることを見つけていくような持続可能な学びを実現していったらどうかという話もあった。
- 子どもたちが楽しい学校についてたくさんお話をいただいたので、これからの学校運営に生かしていきたいと思う。

ウ 玉井幼稚園・小学校

(玉井幼稚園長・玉井小学校長 小林 雄)

- 本校は、大玉村の大きな特色である「地域と共に歩む学校」、そして「幼・小・中…おおたま学園」を大切に、充実させていく取組みを目指していく。
- 子どもたちのマネジメント力の育成、読書活動の活性化に本年度以上に重点を置いて取り組んでいきたいということをお話した。
- 委員の方々からは、更なる保護者の参画について学校からの発信等の工夫、そして、一人一人を大切にしたい個に応じた教育の工夫、体験学習の充実等について貴重なご意見をいただいた。ぜひ参考にさせていただきたいと思う。

エ 大山幼稚園

(CS委員 佐原 弘美)

- 来年度の重点目標として「非認知能力の育成」が挙げられる。そのために、今行っている“わくわく Thinking Time”を充実させて、子どもたちに道徳的な学びができるよう年間計画に位置付けていく。
- 子どもたちは、マスクで表情が分からないために、嫌な言葉を使ってしまうことが日常的にあった。“わくわく Thinking Time”に併せて、言葉遣いの指導についても年間計画に位置付けていくようにする。
- 幼小交流で、現在小学1年生と5年生との交流を随時行っている。その中で、5年生には学習発表会の折に使うカード等を作ってもらった。そんな活動をもう少し充実させていきたい考えている。
- 幼稚園の日常生活の中でのいろいろな様子を聞くと、子どもたちは活発に遊んでいて、本当に生き生きしており、とても良いと感じる。そんな部分も生かしながら、来年度の目標に入れていければいいと考える。

(座 長) 各校・園の説明が終わったが、質問等があればお願いしたい。・・・(特にない様子)・・・
先程のコミュニティ広場についてのことで質問等あれば…。

(会 長) 10時05分から11時25分までのフリースペースの中で、ワールドカフェ形式での共有を5分×3回で15分しかとっていないのだが、移動があるので窮屈な時程ではないか。

(斎藤指導主事) 多目的ホール内の8グループについては、同一室内であるので移動はそんなにはかからないと思っている。それ以外の8グループはそれぞれの部屋に入るのだが、移動を含めても5分くらいで十分であると考えている。ホール以外でも移動するのに1分もかからないと思う。館内放送も使えるので、移動については放送で伝えようと思っている。

(座 長) その他については大丈夫だろうか…。来月1月13日に第8回CS委員会があり。その際に役割分担等についても示されるので、意見がある場合は、その際か事前に斎藤指導主事に一言かけていただきたい。それでは以上で協議を終了する。ありがとうございました。

7 その他 特にない

8 閉会のことば

(CS委員会副会長 館下 愛理)

みなさん、お疲れさまでした。これで、第7回おおたま学園CS委員会を終わります。よいお年をお迎えください。ありがとうございました。